

奥出雲薔薇園事業

新たな奥出雲ブランド
「バラ園」開設に向け



覚書の調印の様子
福間社長と山根呉一郎旧三刀屋町長(写真左)

農業振興センターが隣接し、相乗効果が得られる点などの理由から、雲南市への進出が決まりました。

調印式では覚書の調印に続き、福間社長が「適地で生産されたバラは、芳香性も高くなり、商品価値も上がります。地元との連携をとりながら、夢のある全国ブランドの生産に挑戦したい。」とあいさつしました。



独自開発によるバラ「フレグランス・ロゼ」は芳香性も高く、花卉も大きい。また、5月～11月の間で連続して開花が楽しめます。



大田市に本社をおく(株)大田緑地(福岡厚社長)が、三刀屋町の明石緑ヶ丘公園の隣接地へ進出することになり、10月27日、同社と雲南市(旧三刀屋町)の間で、奥出雲薔薇園事業に関する覚書の調印を交わしました。



10月21日には地元業者などへの説明会もありました。

市と同社が提携して行う奥出雲薔薇園事業の計画では、来年5月にバラ園(1ha)の開園を予定しており、その後、本格オープンにむけ、将来は生産規模の拡大や基盤整備をすすめていきます。

バラ園では、地元からの採用も計画されていることから、新たな雇用創出・定住推進に繋がると期待されています。

第5回鉄の歴史フォーラム

金属文化の花開く地



義文学芸員や地域振興財団の為永邦男監事など4人を迎え、それぞれの見解による意見発表がありました。



山崎さんの発表のようす。

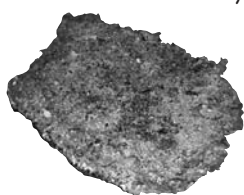
(財)鉄の歴史村地域振興財団の主催による「第5回鉄の歴史フォーラム」が11月6日、吉田町にある木の国文化館(鉄の歴史村オープンエアマミュージアム内)で開かれ、多くの歴史愛好家や研究者などが参加しました。

今回のフォーラムは「金属文化の花開く地」というテーマで行われ、加茂岩倉遺跡から出土した銅鐸、大田市の石見銀山、そしてたたら製鉄など、金属文化について、その歴史の比較や関連性などが検討されました。

基調講演に続き、パネルディスカッションでは、コーディネーターに広島県比治山大学の島津邦弘教授、パネリストに雲南市教育委員会の山崎修さん、石見銀山資料館の仲野

このうち、山崎さんは「加茂岩倉銅鐸の調査に関わった経験は非常に貴重な経験になりました。遺跡や文化の保存には、体験活動などを通じた遺産を活かしたまちづくりが必要であることを実感しました」と語っていました。

フォーラムの一環として、たたら鍛冶工房では、砂鉄を原料に鉬(鋼のもとになる塊)が精製されたほか、地元の幸を利用したレセプションもありました。



鉬(ケラ)